



第4号

2009年2月発行

～21世紀市民プロジェクト“ミュージゼ”第4回ミーティング開催～

2009・2・10（火）伊達市噴火湾文化研究所ゲストハウスにおいて“ミュージゼ”の会が開催されました。当日は22名とワザパーとして新聞を見て興味を持ち、一度参加したいといわれてこられた赤塚さんと、旅行で博物館を見るのが趣味でお話を聞きたいと高橋さんの2名の24名でおこなわれました。内容は前回と同じく5つのグループに分かれて話し合い後、代表者が内容を発表しました。その後で北海道新聞社の伊達支局長田村晋一郎氏による講演を聞いて意見交換がおこなわれました。

～第4回ミーティングの概要について～

フリートーク発表内容

世話人による案として“ミュージゼ”の活動内容をA・「市民向けの事業」B・「ミュージゼメンバー向けの事業」に分け討議しました。下記の他沢山の意見が出て時間がいつも足りなくなります。

A) {市民向けの事業}

- ・今あいている店舗をかり街角出張展として、いつでも見せられるように
- ・伊達の市内にも見るべきものがあり、見て歩く機会をつくる
- ・中・高校生を対象としたイベント実施
- ・各文化団体の出展を通してミュージゼの拡大を狙う
- ・市民対象の博物館見学ツアーを行う
- ・博物館見学の中に博物館のまわりの散策もひとつに組入れる
- ・市民に対し博物館の硬いイメージを払拭し楽しくなる言葉



B) {ミュージゼメンバー向けの事業}

- ・講師を招いて勉強する
- ・ジオパークとの連携を通して、岡田教授・宇井教授に講演願う
- ・イベント方法やメンバーによる講演
- ・展示のあり方やリピーターがくる様な博物館を考える
- ・外のメンバーと交流し学ぶべき
- ・博物館情報のあり方で、総合案内・年間予定表などを周辺施設に配置し、簡単に手に入る方法
- ・この活動に関心を持つもっと若い人をメンバーに増やしてはどうか

講演

「宮尾文学館はなぜ無料化されたか」

北海道新聞伊達支局長

田村 晋一郎

4年間に亘り、伊達近郊で執筆された宮尾氏の業績をたたえて、伊達メセナ協会が「建設期成会」を設立、建設主体は伊達市となったが、資金は宝くじ協会の助成金と一般寄付でまかない市一般会計の持ち出しはほとんどなかった。オープン時の入場目標は4万5000人で2005年4月にオープン6月は5000人、10月は1万人達したが、2007年4月は4089人となり、2007年12月NPO法人だて観光協会による運営委託～2008年4月に噴火湾研究所へ移管し無料化になった。2008年11月は特別展があり、1万3833人を突破した（内特別展5274人）が加速的減少である。

同じように道内の記念館や文学館は入館が減少している。これは修学旅行のルート変更や活字離れが一因であるが、繋ぎ止めるには地域に根ざしたものを見せることを考え、市民参加など研究し戦略的位置づけや新しい情報発信をしていくことが必要である。



第5回ミーティングは…

“ミュージゼ”の方向性について意見交換を行いたいと思います。つきましては、世話人より“ミュージゼ”の趣旨説明と今後の事業計画についてみなさんに提示したいと思いますので、活発な意見交換をよろしくお願いいたします。

次回開催日

3月17日（火） 18:30～

伊達市噴火湾研究所ゲストハウス

～伊達市街の歴史景観が危ない～

樹木医 小倉 五郎

伊達の景観の中で樹木の果たす役割は大きい。街中の歴史と文化を醸し出す要素は、建造物と樹木ではないだろうか。旅で訪れた他の歴史文化都市を思い浮かべれば、この事は納得してもらえらると思う。歴史的建造物の少ない伊達市街から景観古木が消えた時、誰が伊達は歴史文化都市と胸を張れるのか。文化財の記念物に指定されている樹木は勿論、景観古木の中で定期的に維持管理を実施しているのは、大町交差点推定樹齢115年の「シダレヤナギ」だけではないだろうか。このシダレヤナギにしても道路造成の際根元に土が盛られ、根が酸素欠乏のかわいそうな状態にある。また平成16年の台風で大きく折れた幹は、腐朽菌に侵されている。

伊達市街の景観古木の多くは程度の差はあれ、これと同じ状態であると言える。樹冠の枝葉が枯れ始め、元気がなくなったと気付いた頃には、樹木は大きな障害を負っている。樹木医の仕事は樹木が長生できる生育環境を整える事にある。難しい事ではない。

市民の力で樹木周囲を柵で保護をして、落ち葉を敷き詰めるだけで、土壌は生き返り始める。一樹木医の声が、一市民の声が届く事を切に願う。



～博物館なるほど物語～

～縄文シテイサミットから博物館を考える～

噴火湾考古学研究会 前田武志

縄文シテイサミットは縄文遺跡を有する都市のネットワーク化を図り、個性豊かな縄文シテイとして交流と結束を高め、縄文の魅力・深さ・歴史的意義・縄文の心や文化感を共有、まちづくりに活用する方策を探る事を目的として縄文都市連絡協議会（伊達市・函館市・青森市・鹿角市・大館市・北秋田市・秋田市・東松島市・福島市・糸魚川市・塩尻市・小矢部市・恵那市・霧島市・若狭町の15市町）を設立した。その後毎年「縄文シテイサミット」を各地で開催し、今年で12回目となります。今年度は洞爺湖町が協議会に加盟し「縄文シテイサミット in 洞爺湖町」として開催する事に決定しております。

昨年北黄金貝塚と洞爺湖町の入江・高砂貝塚を含む「北海道・北東北縄文遺跡群」が世界文化遺産候補としてユネスコの暫定リストに掲載する事が決定した。また「洞爺湖・有珠山ジオパーク」が国内候補地として日本ジオパークに認定され「世界ジオパークネットワーク」の認証が待たれている。この環境の中で“博物館づくり”を考える“ミュゼ”会も検討の中に組み入れ、ワークショップを積み重ね、報告提案書を作成する事が必要と思います。

私たち噴火湾考古学研究会では博物館の必要性を以前より強く感じており、毎年開催される「縄文シテイサミット」に参加勉強し、また開催地や近隣地域の遺跡・文化財・博物館・資料館などの見学会も併せて実施しております。昨年の「縄文シテイサミット」は東松島市で開催され、テーマ「縄文に学ぶエコロジー・縄文の“もったいない”精神に学ぶ」であり、共同宣言として「縄文人のモノを大事にする心”もったいない”精神に学び、人・まち・環境づくりを考え「縄文遺跡」を有する自治体の誇りと使命感・魅力・歴史的意義を発信・縄文遺跡を生かす方策を探りネットワーク化を図る」となった。また遺跡見学の中で素晴らしく、特筆すべき遺跡を2ヶ所取り上げて紹介致します。

1、長井市古代の丘資料館

出土した考古資料を中心として資料館に展示し、周辺には体験学習にバンガローを設置、野外展示としてストーンサークル・遺構・土偶群像（15体大きさ3m～60cm）など実物に対し忠実に復元され、丘を彩り1日過ごしていても飽きなく又行きたく欲望にかられる。



(奇妙な顔立ち、ユーモラスな体つきをした土偶)



2、東松島市さとはま縄文の里史跡公園～東松島縄文村歴史資料館

松島湾最大の島「宮古島」全体が遺跡であり、この島を遺跡公園とし整備している。平地は歴史資料館や関係する建物を建て縄文村として機能を果たす。史跡公園は住宅と同居しており住宅立替工事で人骨が出た事もあった。公園内には貝層観察館など色々な施設および見学ポイントが多く夢も有り楽しい。これから地域の環境を生かし何度も行きたくなる博物館づくりが必要と思う。

～ 民族資料館での体験から～

武田 珠后

美術教師なので、いろいろ行っているのでは…？ということで、原稿の依頼がきたのか？とおもいますが、お恥ずかしい話ですが、実は、あまり、博物館や美術館などには、行っておらず、この原稿も「どうしたものか…？」と困惑しながらも過去の記憶をたどってみました。そこで、思い出したのが、数年前の教職員の10年研修です。異業種の経験をするということで、私が派遣されたのは、室蘭市の民族資料館。2日間の研修でした。学芸員の方から、レクチャーを受けたり、館内の清掃、展示品の整理、館内外の見学・野外活動を行いました。学芸員の方の熱意ある指導はもちろんですが、周囲の散策やまき割り、せんべい焼きなどの体験が印象に残っています。また、資料の保存・管理の大変さも少しは感じる事ができました。ミュゼの話し合いでも話題にしていますが、体験的な内容は、興味を引き、知的好奇心に働きかけてくれるものだと思います。そのような博物館になっていくといいと思います。

【21世紀市民プロジェクト“ミュゼ”事務局】

〒052-0031 伊達市館山町21番地5 TEL 0142-21-5050 FAX 0142-22-5445

伊達市噴火湾文化研究所 ニューズレター 担当：小西・上野

e-mail bunka@city.date.hokkaido.jp <http://www.funkawan.net>